



# 内子座 藝於遊



## 土壁の解体

令和7年8月29日、内子座内部で土壁の解体が始まりました。今回の耐震補強工事では、内子座内部の空間を保持するため、壁面での補強を予定しており、そのため、一部の壁を解体するものです。解体にあたり、工事監理を担っている（公財）文化財建造物保存技術協会の主任技術者と工事方針について打ち合わせをし、昭和の復原工事以前の壁が残っているかを確認しながら丁寧に解体作業を進めていくことや、内子座の場所ごとに層出しを行い比較できるようにすることなどが確認されました。



層出し作業の様子  
(8月29日撮影)



▲写真上：2階向正面 ※それぞれ内部  
▼写真下：2階西側通路 東櫓：写真右下▶



## 内子座の土壁

内子座の壁の色は4色。外部は主に白漆喰で、内部は、木戸先部はあさぎ漆喰、客席部は淡い赤色漆喰、舞台部は黄色味のよどや漆喰とゾーニングされています。それぞれ層出しにより大正当時の壁が見えてきました。昭和の復原修理時には、一部の壁について、当初の上塗りの上に、中塗り、上塗りをして仕上げていたことが分かります。また、面白いのは、東西の櫓状の建物内部において、当初の上塗りとは現在のの上塗りの間にもう一つの上塗りの層があったこと。まだその理由はわかっていませんが、内子座の歴史が何かを語りかけてくれているようです。

